



# 校長室だより

第 1 5 号  
(通算第68号)  
令和4年6月29日(水)  
大崎市立沼部小学校  
校長 吉田 浩之

## 続 靴をそろえる！

登校してきて、昇降口で靴箱にきちんとそろえて入れる子がいれば、投げ入れるように靴箱に入れる子もいます。どちらがいいでしょう？言わずもがなです。改めて靴をそろえることの効能について考えてみました。私たちの世代は小さい頃よく「靴をそろえなさい。」と、言われて育ってきました。当時は、なぜそろえなければならないのか、よく分かりませんでした。脱いだ靴をそろえることができると、それだけで周りから「きちんとしている」と相手に印象付けられます。玄関先の行動ですべて判断されるわけではありませんが、第一印象が良いことに越したことはありません。

スリッパやサンダルに履き替えなければならないトイレがあります。そのとき、履き替えた靴を脱ぎっぱなしにしていることがよくあると思います。(私自身脱ぎっぱなしにしていたこともありました。反省…)忙しいからとか、めんどくさいから、ということかもしれませんが、そのようなときはきっと心に余裕がないのでしょう。忙しくても心に余裕をもつことは大切だと思います。そろえることはほんの数秒あったらできることです。次に(スリッパやサンダルを)履く人が、気持ちよく履くことができるといいなと、靴をそろえることで、他人への思いやりの心を育てることもつながると思います。

ちょっと視点を変えてみましょう。職人さんや一流のアスリート、一流のアーティストは自分の使っている道具をととても大事に手入れします。おとし逝去した私の父は職人(大工)でした。やはり道具の手入れは怠りませんでした。仕事から帰ってくると、かんなの刃を研いだり、のこぎりの目立ちをしたりと道具の手入れを丁寧に行っていました。幼心に父のそのような姿はかっこいいなあと思っていました。これは靴をそろえることに通じるものがあると思います。仕事でいい結果を残すために大切なことですね。「何か物事を始めるのに、最初に大切なことは、『整えることだ』』と言っていた人がいます。まさにその通りだなと思います。靴は歩くための大切な道具、それをほんの2~3秒でそろえてみる、なんか気持ちよくなるような気がしませんか。

学校では、靴をそろえる場面はそう多くありません。外靴や上靴を靴箱に入れる、コンピュータ室やプールで学習するときに靴を脱ぐ、そのくらいかもしれません。ですから、靴をそろえることは 御家庭と一緒に、取り組んでいきたいなと思っています。是非子供たちに玄関先で靴をそろえることへの声掛けをお願いしたいのです。

今日からできる簡単なことです。「自分だけやっても・・・」と思う人がいるかもしれませんが、しかし、自分がやらないと何も変わらないのです。御協力をお願いします。

